

7 千住宿 ~ 草加宿

東京都足立区
梅島 ~ 竹の塚

(歩行距離 1721m 22分)

歩く地図でたどる日光街道
http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp



増田橋交差点

増田橋
見沼代用水を水源とする用水で赤山街道に沿って南側を千住堀、北側を竹の塚堀が流れていた。千住堀はこの交差点で道なりに曲がり、日光街道の西側を下る。竹の塚堀は日光街道を横断し、一部はそのまま東に、残りは街道の東側を南に下る。街道を横断する竹の塚堀にかかっていたのが増田橋であった。交差点の東南角には「北へ旧日光道中西へ旧赤山道」と刻まれた碑がある。

番所
江戸時代、重要な地点に番所がおかれた。交通の要所に設置され、通行人や荷物、船舶などを検査・徴税をおこなった。主要な関所の近くには遠見番所が設けられた。江戸城の城門に設置された御門番所、武家地の警備に辻番所。両国橋などの橋には橋番所、町には戸番所、自身番所などがあつた。ほかに口留番所・境目番所などがあつた。

六月(むつき)の地名
伝説には源義家が当地の土豪と苦戦の末に辛勝したのが酷暑の六月であったからという(旧暦の六月は炎暑の候である)。「梅田・鳥根・六月村・保木間村・此辺多く秋葵を田圃に栽(うえ)置けり、長(た)けし甚短し。花盛りなり。何故にかくは矮短(わいたん)なり」と問へば、幾度も刈取て紙を抄(す)くねりに用ふと土人のいへり(日光駅程見聞雑記)。「...梅田 鳥根 六月村に来たりて小休み 梅田村よりこれまで一里 ここを弥五郎新田とて...」(上野下野道の記)

御成橋跡
2代将軍 秀忠、3代将軍 家光が、鷹狩りのやち寄りの設けられた。将軍が安堵のために渡った橋の跡と御成道松並木跡。

3 六月一里塚
日本橋から3里の一里塚。何の痕跡もない。鷹神社前交差点を過ぎた所と推定。六月1丁目南端。「日光海道の左右に對して築けり。塚上に榎を植置けり」と風土記にある。



鳥根鷹神社

鳥根鷹神社
古代の海岸線とされる所があり、御祭神が船で当地に着かれたという伝承から浮島明神とも称された。文保2年(1318)創建。鳥根村は徳川将軍家の鷹狩場であったことから、歴代将軍の参詣があつた。3代将軍家光のお手植えという松があつたが、天保年間(1830~1845)惜しくも枯れてしまったと伝わる。また、8代将軍吉宗は、当社にあつた寺子屋で、手習い教本に幕府の諸法度集が用いられているのを見て、祠堂に褒美を賜つたという。神楽殿、藤塚、将軍石があります。

増田橋立場 千住宿と次の草加宿のほぼ中間にあたり、行き交う旅人が足を休める立場として賑わつた。「水を売る茶屋あり」(五海道中細見案内)

交差点付近、マンホールの蓋に相撲をとる蛙の図と「やせ蛙まけるな一茶是れにあり」という小林一茶の句が刻まれています。江戸に住んでいた一茶は、しばしば炎天寺を訪れました。手記『しだら』に「武州竹の塚というに蛙戦いありける見にかかるとあり、文化13年(1816)に「やせ蛙...」の句が詠まれています。「蛙戦い」とは、繁殖期を迎えた雄蛙が雌蛙をめくって争う様子であり、当時は「かわずの里」と呼ばれたほどの水田地帯だった増田橋周辺の景観も物語っています。

茶屋
茶屋は休憩所として、場所に応じて注文に応じて茶や和菓子を食べたい店として発達しました。水茶屋、掛け茶屋といひ、交通手段が徒歩に限られていたため、宿場や峠の前後の街道筋にあつた。立場にあつた茶屋と呼ばれた。お茶の葉を売る店を茶屋といひました。

御成橋跡
2代将軍 秀忠、3代将軍 家光が、鷹狩りのやち寄りの設けられた。将軍が安堵のために渡った橋の跡と御成道松並木跡。

鳥根の由来
古くは鳥根村とよび、鳥根とは水田の中に点在する畑のこと。また、文字通り、鳥、というが微高地の根っこ・水際のこと。

大正新道
記念碑？大正時代に、低湿地に新道がつくられた。

鳩谷道(赤山街道)を1.2kmほど行くと伊興本町に実相院があり、浪人征伐の碑や石が残っている。伊興町前沼の東岳寺(伊興本町1-5-16)は一立斎広重(安藤広重)「初代安藤広重墓及び記念碑」墓がある。赤山街道は東武線竹の塚駅南側から舎人を経て埼玉県に入り、関東郡代伊那家の陣屋が置かれた川口市赤山、日光御成街道の鳩谷へと通じている。

常楽寺
江戸時代の洒落本の作者で、文人竹塚東子(とうし)谷古宇四郎(左衛門)の墓がある。

萬福寺
寺子屋河内塾の伝承を受け継ぎ開業された竹嶋小学校の碑があります。

六月八幡神社
「伝へ云ふ。八幡太郎義家朝臣奥州征伐の時、この国の野武士とも道を遮る。その時六月炎天なりければ、味方の勢劣(つか)れて、戦わんとする気色もなかりしにより、義家朝臣心中に鎌倉八幡宮を祈念ありしかば、不思議に太陽繞(めぐ)るが如く光を背に受けければ、敵の野武士等日にむかふ故に眼(まなこ)くらみ、大いに敗北しぬ。依つてこの地に八幡宮とぞ。この故に村を六月といひ、寺を炎天寺と号す、又なり」(江戸名所図会)

炎天寺
蓮の葉の上で蛙が相撲をしている像と、小林一茶の文化13年(1816)の作「やせ蛙まけるな一茶是れにあり」の句碑がある。「武蔵国竹の塚といふに蛙たかひありけるに見まかると。4月20日なりけり。翌年に「蝉なくや六月村の炎天寺」がある。

赤羽家長屋門
元鳥根村の名主、牛込金武家の屋敷の長屋門で、通称「金武様」と呼ばれた。現在は赤羽氏の所有。

国土安穩寺
「御朱印高5石、安穩寺、右寺御鷹野之節、度々御鷹所に相成り」(日光・奥州・甲州道中宿村大概観)この先には鳥見役所もあり、將軍の御鷹場であつた。また、日光社参のとき立ち寄り、將軍専用の御成門が建てられ門前には御成道が作られた。安穩寺8世日芸上人が宇都宮釣天井事件を予言したので、徳川家の祈願所ともなつた。

御成橋跡
御成道松並木跡碑

西新井大師へ1400m 18分

東武鉄道西新井駅
弘法大師ゆかりの地。全国行脚(あんぎゃ)中の大師が悪疫流行の難儀を聞いて、護摩祈祷(ごまきとう)をして厄避けを行なつた故事から伝説を生み、その中に十一面観音像を刻んで建てた堂の西側から清水が湧き出て、井戸となつたという説が地名の由来です。鎌倉、室町、江戸時代と発展し、明治の町村合併でも知名度で村名となり、駅名にも命名されました。

歩道が狭くなる